

カタール、12 年ぶりに「ガス開発モラトリアム」を解除

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

4 月 3 日、カタールの国営石油会社、カタールペトロリアム (QP) の CEO である Saad Sherida al-Kaabi 氏が、2005 年に同国が自ら課した天然ガス開発に関するモラトリアム(凍結)を解除すると発表した。

カタールは 1990 年代に天然ガス開発を本格化し、LNG 輸出を大幅に拡大、ついに生産能力 7700 万トン有する世界最大の LNG 輸出国にまで成長した。しかし、カタールは 2005 年に、同国が有する世界最大の天然ガス田、North Field のさらなる開発を停止するモラトリアムを自ら発表し、世界の注目を集めた。それまでの急速・大幅なガス田開発と生産拡大が North Field の Reservoir (油・ガス層) にどのような影響・インパクトを及ぼしたかを精査するため、というのがモラトリアムの理由とされてきた。ちなみに、North Field はカタール領とイラン領の海上にまたがる超巨大ガス田で、カタール側では、North Field、イラン側では South Pars と呼ばれ、イランは独自に South Pars の開発を進めてきている。

今回、カタール側は、ガス層への影響に関する精査が終了しモラトリアムを解除する時期を迎えた、そして世界のガス需要はこれからも拡大する、との認識を示し、モラトリアム解除を宣言した。これによって、カタールは再び North Field でのガス開発を開始し、LNG 生産拡大を可能とする道を歩み始めることになる。発表された今後の開発計画に関しては、North Field の南部を開発し、5~7 年後には、ガスの生産能力で日量 20 億立方フィート、石油換算では日量 40 万バレルの生産を目指すとしている。これによって、North Field の生産量は 10% 増大するという。また、仮にこの増産分を全て LNG として生産・輸出する場合、その数量は 1500 万トンに相当するとされる。

カタールがモラトリアムを継続する間も同国は世界最大の LNG 生産・輸出国の地位を保持してきた。しかし、同時にこの間に世界の LNG 市場には劇的な変化も生じてきている。米国ではシェールガス革命が進行し、かつては LNG の大輸入国になると予測されていた米国のガス生産量が急増、ついには LNG 輸出が開始された。シェールブームの中で陸続と LNG プロジェクトが立ち上がり、連邦エネルギー規制委員会が建設許可を出した LNG 案件の総量は 6000 万トンを超え、その他の可能性のある案件も含めれば、カタールを凌駕する輸出可能性さえも現実のものとなっている。

また、2011~2014 年前半まで続いた高原油価格期とそれに連動したアジアの高 LNG 価

格期に最終投資決定が行われた多数の LNG 案件、とりわけ豪州の案件が稼働を開始し、今後それが 2020 年頃まで続くと考えられる中、豪州がカタールを抜いて世界最大の LNG 輸出国となるのが目に見えてきた。その意味では、モラトリウムを続ける中でカタールは LNG 輸出国としてトップの地位に居続けたものの、豪州、米国に肉薄され、追い抜かれる可能性が現実化、またそれ以外のロシア、東アフリカを始めとする多数の LNG 輸出国案件が計画される中で相対的なシェア低下は避けられない状況となりつつあったと言える。

この状況下、今回のモラトリウム解除は、ある意味ではカタールの LNG 戦略の大転換と見ることが可能である。端的に言えば、モラトリウムを解除して、市場シェアを確保・拡大、LNG 輸出国としての地位と影響力を保持し強化し続ける戦略に乗り出した、とも考えられるのである。仮に上記の見方が正しいとすれば、世界の LNG 市場にとって、その戦略転換の持つ意味は非常に大きい。

世界の LNG 市場は拡大を続けている。また、長期的に見ても LNG 拡大への期待は大きく、IEA の長期見通しでは、LNG は現在では天然ガス貿易の主体であるパイプライン貿易を超えて、2040 年には国際ガス貿易の過半を占めるまで成長すると見られている。しかし、継続的な成長への期待が大きい LNG 市場ではあるが、現在では、供給が需要を上回る供給過剰状況となっていることは周知のとおりである。しかもその状況は 2020 年代初頭までは続く可能性が高いとの見方が関係者の共通認識となっている。供給過剰・買手市場の状況下、供給国・供給者にとっては、如何に市場での競争に打ち勝つか、がサバイバルの基礎条件でもある。

その点、カタールの LNG プロジェクトは、基本的に極めて高い競争力を有すると考えられている。第 1 に巨大ガス田である North Field をベースにしたガス生産であること、第 2 に、ガス生産に伴う液体分（コンデンセート・LPG 等）がリッチであること、第 3 にこれまでのガス生産・LNG 生産/輸出における優れたトラックレコード、があり、おそらく世界有数の競争力を持つ新規 LNG 案件になる可能性は十分にある。今回のモラトリウム解除でガス生産開始は 5~7 年先、とされるが、その時期はちょうど現在進行形の供給過剰から市場が均衡に向かい、増大し続ける需要を満たす新たな供給案件が必要になるタイミングとも重なる。その時、強力な競争力を有するカタールの案件が市場に現れることは、世界の他の LNG 案件にとって、LNG の調達側にとって、またここ数年課題となってきたアジア LNG 市場の構造変化にとって、重大な意味を持つことになる。

ついに LNG の巨人、カタールが動き始めた。最も低コストの供給力を持つプレイヤーが市場シェア戦略に乗り出す時の市場へのインパクトは、他のエネルギー市場の例を見てもわかる通り、市場の姿に大きな影響を与える。また、カタールは、QP の傘下にある LNG 生産会社である Qatargas と RasGas の 2 社を統合する計画を発表している。これも、同国の LNG 生産・供給体制を合理化し、コストを下げ、全体として競争力強化に向けた取り組みである。動き出したカタールの LNG 戦略は、世界の LNG 市場を展望する上で目を離すことのできない新たな最重要ポイントの一つであることは間違いない。

以上